

足立区に拠点を置く竹内工務店は、2027年に創業100周年を迎える。上下水道や道路、公共施設、学校など、土木と建築の幅広い分野で実績を重ねている。工務部土木課に所属し、下水道工事を担当する鈴木

日和さんは、スポーツトレーナーから転職し、今年で入社4年目。入社の経緯や今後の目標などを聞いた。



竹内工務店（足立区）
入社4年目

すずき ひより
鈴木 日和さん

安全管理を徹底 住民への理解を深める

「なぜ転職して建設業界に進んだのか。」

「大学卒業後、スポーツトレーナーとして2年間勤務したものの、業務内容に変化が少なく、成長を実感しにくいと思っていた。そこで業種を絞らずに転職活動始めた。」

そんな中、社長や部長との面談を通して職場の雰囲気の良さを感じた他、充実した福利厚生もあり、入社を決意した。

「入社してからのギャップはあるか。」

「入社前は建設業界に対し

て多くのイメージを持っていたが、実際に現場で働くイメージが大きく変わった。安全は一人一人の意識や行動で高めることができ、これまでのイメージも現場環境の改善によって克服が可能で、想像よりも快適で働きやすい環境だと感じる。」

「これまでの担当した現場は、これまではマンホールの耐震化工事に携わり、上司から指導を受けながら施工計画を作成した。現在は、江東区晴海の下水道管再構築の工事でSPR工法を採用した現場を担当している。」

「大変だと感じた場面はいつか。」

「まずは安全管理の徹底に努めたい。安全管理のやり方にはさまざまな工夫があるので、それらを吸収しながら、今後担当する現場で役立てていきたい。資格面では一級土木施工管理技士の取得に向けて勉強している。」

「休日の過ごし方は。」

「夜勤と日勤があるので最初は慣れるのが大変だった。その中でも日勤の夜はしっかりと寝て睡眠時間の確保を心掛けている。土日の休暇は取りやすいので、朝から友人と会う予定を入れるなど、充実したプライベートを過ごしている。」

「入社後はマンホールの耐震化工事に携わり、上司から指導を受けながら施工計画を作成した。現在は、江東区晴海の下水道管再構築の工事でSPR工法を採用した現場を担当している。」

「大変だと感じた場面はいつか。」

「まずは安全管理の徹底に努めたい。安全管理のやり方にはさまざまな工夫があるので、それらを吸収しながら、今後担当する現場で役立てていきたい。資格面では一級土木施工管理技士の取得に向けて勉強している。」